

令和2年度学校評価  
(静岡サレジオ幼稚園)

静岡サレジオ学校評価委員会  
静岡サレジオ幼稚園 園長 河原崎靖子

教育目標(キリスト教精神に基づくバランスのとれた人間教育)

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価
		評価点	幼稚園としての反省・改善策	
1	教育目標	A	年度のはじめに教育目標を見直し、その目標に向け、話し合い、共通意識をもって、日々進めることができた。	
2	宗教指導	A	一人一人に声をかけカトリック精神を心にとめ、関わりを持つよう取り組んでいた。教育課程にも通じるものがある。	○ミッションスクールとしての一番大切な豊かな心がサレジオの子どもたちに育っているのを実感している。他者への思いやりの心が、子どもたちの自発的な発想から生まれている現実には本当に素晴らしいことだと思う。これからもドンボスコの予防教育、全人教育を通して、皆様が子どもたちの教育に献身してほしい。
3	教育課程	A	今年度よりPYPの探究プログラムのユニットを作成し取り組んだ。そのユニットに対する環境を設定して教育課程に組み入れた。	○日々の生活の中から物事を発見し、友達と共有や意見交換をすることができていた。また、それを形として作るまでを成し遂げ、とても有意義であったと思う。
4	教科指導	A	クラス単位だけでなく、気になることとして様々な教員の視点から考える体制がある。また、学園の臨床心理士に相談をし、現場を見てもらい実態に即した指導ができるように援助を受けたりしている。	○先生方も一人一人の様子をしっかり把握していて、その上で、普段の仲が良い友達だけではなく、より多くのクラスメイトと関われる様に工夫をしているのを感じられた。 ○園の休日に自分の子供が幼稚園に行けないことに残念がっている姿を見たときは驚いた。
5	遊び指導	A	教員間で連携し、環境構成を行いながら自ら子どもたちが遊べるよう積極的に関わるようにした。	
6	行事	A	コロナ禍にあったため、通常通りには全くいかなかった。しかし、教員間で話し合いを何度も重ね、本当に子どもたちに良いもの、経験させたいものが明確になり、協力し実施できた。	○イベントの開催についても学年毎に分けて行われ、見る側からすれば少し物足りなさを感じたが、世情を踏まえればベストな案であったと思う。 ○コロナ禍で先生方が工夫をして行事や山間会を実施してくれたことに感謝している。特にYouTube配信などは仕事をしている方や小さなお子さんのいる方にとって、とてもよかつたと思う。 ○コロナが落ち着いた後の授業・各種行事等の運営をどのように行うかを検討する必要性を感じる。 ○行事などが中止になり、生徒たちの力を発揮するチャンスができなかったことは残念。 ○コロナ禍で行事の中止・延期を余儀なくされる中で色々なアイデア・工夫を凝らして新しい試みがいくつも生まれたことに感心した。
7	研修	A	今年度は、子どもたちの日々の振りかえりと、準備に時間に要したため、園内の新たな研修は企画できなかったが、個人個人で積極的にリモート研修を受けたり、意見交換など行った。	
8	生活指導	A	職員会議のみに関わらず、常に話し合いの場を持ち共通理解を図るようにした。	○先生方の中にはご挨拶してくださる方もいてとても嬉しい。 ○先生方は笑顔で子どもたちと接する場面をととても多く目にした。先生の姿勢から子どもたちの物事に前向きに楽しみながら取り組む姿が生まれているように感じる。
9	保護者とのかわり	A	コロナ禍において、思い通りにいかず、保護者との面接や保育参観はできずにいたが、年度の後半になり、行事も各学年入れ替わりで実施したり、少人数で分散の参観を行ったりした。また、県立美術館に会場を設け、子どもの作品を見てもらうなど工夫をし理解を求めるようにしてきた。またライブ配信など行った。	
10	安全管理	A	今年は、特に様々な考えを行ったと思う。具体的にはバスや玩具、トイレの抗菌コーティング(業者を入れて)を行い、手すりなど、手に触れる回数が多い場所の日々のアルコール消毒を徹底したほか、子どもたちには手洗い、水分補給、などを促し、健康のために留意するようにした。	○コロナ対策の部分の評価として、消毒の徹底、日々の体温管理等は積極的に行われており安心できた。 ○今年度はコロナ禍のため、全校生徒での避難訓練ができなかったが、常に避難経路や集合場所、保護者との連絡方法などの確認や備えができればいいと思う。 ○アルコール消毒や手洗い、うがいの指導、業者を入れての抗菌コーティングなどを知ると保護者としても安心できた。
11	分掌	A	年度当初に役割、担当として分担し、お互いに助け合いながら行っている。	
12	関連事業	A	子育て広場も1回に実施する参加人数を狭め、2回に分けて行うようにし、時間短縮しつつも地域に開こうと努力した。また、預かり保育に関しては、1日に利用する人数が70名近くなる日も出てきた。そのため、施設の不足や手洗い場の数の少なさなどの問題がでてきた。今後その様子を見て対策を検討していきたい。	

13	施設・設備	園の施設整備は子供たちが生活するうえで適切な環境として管理されている。	C	遊戯室、管理棟、総合遊具の老朽化が目立ってきている。安全点検を学期毎に行い、日々注意をはらい必要なことは都度修繕を行うよう努めた。今後通信(Wi-Fi)環境を改善するよう努めていきたい。	<p>○遊戯室と遊具の老朽化が気になった。大地震が囁かれる昨今の事情もあり、子どもを預かる施設として安心・安全な寛容を提供することは第一に考えなければならない問題であると思う。体験入園等で園を訪れた際に、保護者の皆さんの視線は園の施設環境(園舎や園庭)を気にされると思う。諸事情があるとは存じますが、頭の隅に入れておく段階から実現に向けてのシフトチェンジをしていただける事を望んでいる。</p> <p>○各校種共に施設・設備の老朽化による生徒・児童の安全面に不安を抱えていることは心配。</p> <p>○幼稚園の老朽化は早急に善処してほしい。</p> <p>○老朽化への対応に必要性を感じる。園児の増加に伴い園庭芝生の荒れも目立ってきたように感じる。美しい庭園の維持のための設備等も併せて検討が必要かもしれない。</p> <p>○遊戯室、管理棟の老朽化が感じられる。環境が整うと保育・遊びが充実されるように思う。</p>
全般、総合評価		A	今年度はほとんど年間計画通りには進まず、これまで当たり前にしてきたことが出来ないなど制約が多かったが、これが発想の転換となった。そして子どもにとって必要なこと、大切にしなければならないことがより鮮明になり、本園の中心となるものが明確になったと思う。また、フォトダイヤリーなどの保護者への情報配信の仕方も工夫し様々な手段を講じた。そして、保護者には安心してお任せいただけるよう、消毒、日々の活動には配慮してきた。コロナ禍の中の新たな取り組みの1年目でもあり、まだ保護者へ理解を得られないこともあるかと思うが、これから少しずつ説明をし内容を理解してもらえるよう努めていきたい。教員も研修を積極的に受け、今後の教育場面の変化を見極め、対応していかなければと思う。建学の精神を土台とし子どもの姿をよく捉え今後につなげていきたい。	○今年度はコロナ感染症の対応に振り回されたが、サレジオの対応は他校に比べて良い評価であると聞いている。 ○コロナ禍にあっても先生方は一生懸命取り組んでいることがよく分かった。	

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

日常生活が普通に行われることの有難みを感じつつできることを行ってきた。他園では、そういったことでは保護者から物足りずもう少し等、要望や要求が多くあると聞いている。その意味では本園の教職員が一致団結して行ってきたことを評価していただけることはとても有難く、前向きに捉えることができた。また、保護者の方の協力もあって行えたことも大きかったと思う。そう考えると、保護者、園、子どもと3者が同じ思いで体制をとることが子どもの成長に大きく影響し、園全体がよくなることを感じた。今後もまだ、収束は見えないが、この問題が解決したとしてもコミュニケーションを図り協力体制を常にとっていきたい。